

10年ぶりの社長交代。インフラを取り巻く環境の変化や多様化する社会・顧客ニーズを的確に捉え、付加価値の高いサービス提供を通じ「建設コンサルタント業界で一目置かれる存在になる」ことを経営ビジョンに掲げる。最大の経営資源である人を大切に育て、量よりも質にこだわり本質を極める職場風土を醸成することで「質的ナンバーワン企業を目指す」と意気込む。

——就任の抱負を。

「カーボンニュートラルやネイチャーポジティブ（自然再興）など地球規模の課題、SDGs（持続可能な開発目標）が目指す『誰一人取り残さない』という思想、ポストアーバン時代の価値観の変化などインフラを取り巻く環境が変わりつつある。ICTやAIといった新技術をインフラや交通分野に活用するシーンも増えてくる。このような時代だからこそ、当社は『プロジェクト志向』と『本質を

中央復建コンサルタンツ

しろみず やすお

白水 靖郎氏

質的ナンバーワン企業へ

「極める力」を大切にしたい」

——経営戦略は。

「売上高や社員数など規模や量だけを追い求めず、質で勝負する。他者と一線を画し、真に求められる技術者集団、価値創造企業になることが経営ビジョンそのものだ。プロ



新社長

1991年京都大学工学部卒、中央復建コンサルタンツ入社。2010年計画系部門ゼネラルマネジャー、13年取締役中部支社副支社長、14年同東京本社社長、19年常務、23年専務。趣味はテニス、まち歩き、食文化を考察するガストロノミー。裏路地にあるおいしいお店はかなり詳しいそうだ。大阪府出身、57歳。

ジェクト志向とは、技術の切り売りではなく事業化が目

的。構想段階から関わり調査、計画、設計を通じて事業を現し、インフラ施設運営や地域づくりまで継続的に取り組む。プロジェクトのコーディネート・マネジメントを受け身ではなく能動的に行うことが大切だ。その原動力は好奇心と言え。自ら先頭に立ち、社員とともにオフィスや働き方、仕事に好奇心を刺激する仕掛けを作っていく。——中期経営計画の進捗状況は。

「数値目標はほぼ達成しているが、定性的なプロジェクト志向や本質を極める部分は道半ばだろう。2025年度から始まる次期中期経営計画では若手を含むさまざまな社員と議論し、新たな視点を盛り込みたいと考えている」

「鉄道や道路、港湾などの計画から設計、維持管理、国土・交通計画や地域づくりなどコア業務を強化しつつ、新しい領域も増やしていく。今後重要になるメンテナンส์やIT分野、新たな公民連携などを含め、23年度に設置した未来社会創造センターが中心となり活動を充実させる」

——人材をどう育てる。

「メンター制による新人育成や経営層も参画する2〜4年目の月次研修、自主提案型海外研修など、多様なキャリアパスの形成に必要な投資は惜しまない。人を育て、技術力やブランド力を高めるには良いプロジェクトをすることだけに尽きる。社員には『考えるだけでなくとにかく行動に移し、良い仕事をつくっていく』と呼び掛けていく」。

(7月23日就任)

